

氏名	鈴木 千枝
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第7171号
学位授与の日付	令和6年 9月25日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	Development of a comfort scale for community old dwellers with mild cognitive decline (軽度認知機能低下のある地域高齢者のための安心尺度の開発)
論文審査委員	教授 相原 洋子 准教授 加澤 佳奈 准教授 高畑 陽子

学位論文内容の要旨

本研究の目的は、軽度認知機能低下のある地域高齢者の日常生活における安心を評価する尺度を開発することである。軽度認知障害および軽度認知症の人を対象にアンケート調査を実施した。安心尺度と既存の尺度を併せた53項目について主成分分析を実施した結果、6主成分に分類され、安心尺度の項目は「心地よい生活 (PC1)」と「生理的欲求の充足 (PC4)」の2つに割り当てられた (21項目)。PC4は安心尺度の独自性を示し、PC1は既存の尺度と類似性がありながら独自性を認めた。信頼性分析を実施した結果、6項目が削除され15項目の安心尺度を完成した。再度主成分分析を行った結果、PC1 (11項目) とPC2 (4項目) の2つの主成分から構成され、成分相関は0.372、全項目の信頼性係数は ($\alpha=0.880$, $\omega=0.873$) であった。安心尺度は既存の尺度と異なる次元で構成される軽度認知症の人の生活における安心を測定するツールとして、有用な客観的指標であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は軽度認知障害 (MCI) および軽度認知症の当事者を対象とし、地域で安心して暮らしているかを評価できる尺度を開発したものである。認知症を有する高齢者が増える中、公的な支援サービスを受領しにくいMCIの人の地域での暮らしを継続できるよう支援するうえで重要な研究テーマと考える。評価尺度の妥当性と信頼性については研究結果より確認できたが、一方でサンプル数が少ない (回収率が低い) こと、回答選択肢をオリジナルから1つ減らしたことで測定誤差が生じやすくなっており、結果に影響を与える課題が残った。また軽度認知症の人は介護保険サービスを受領できている可能性が高く、そのことが地域での暮らしの安心感にも影響することが考えられ、調査対象者の診断結果の情報が得られていなかったという限界があった。

これらの課題については、今後尺度活用に向けた研究に発展していく中で考慮して行ってほしい。軽度認知機能低下者への早期支援介入について示唆を与える研究と考え、よって博士論文にふさわしいと判断する。